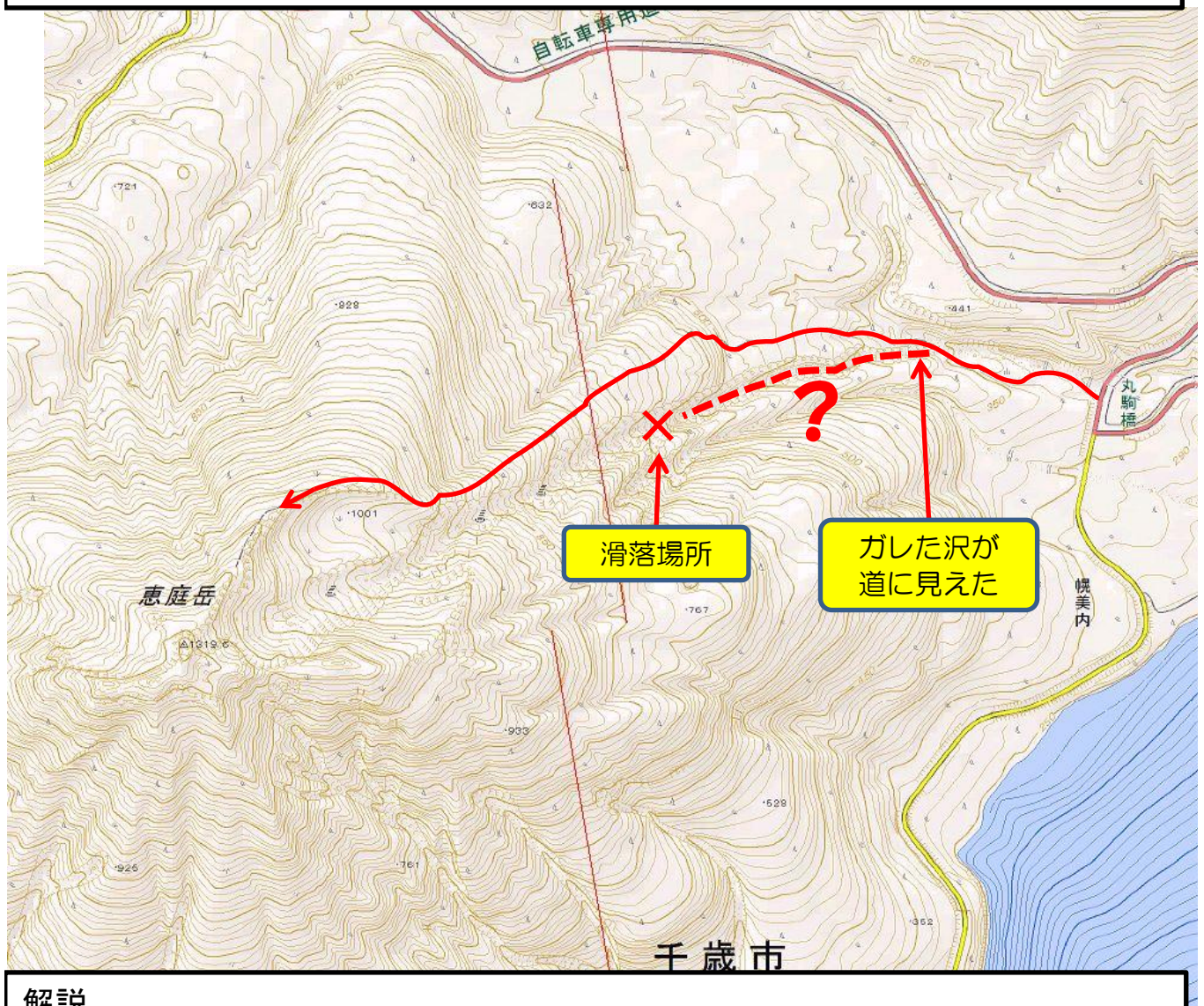


恵庭岳遭難(2013年11月)

本来、沢を渡り切って直進するところを、標識テープを見落として涸れた沢を登り、標高530メートル付近の急斜面から滑落、死亡した。



解説

54歳女性の単独登山。知人に携帯で「道に迷ったみたい」と連絡があったが、その後連絡が途絶えた。本来、登山道は、沢を渡り切って直進するところを、標識テープを見落として涸れた沢を登り、標高530メートル付近の急斜面から滑落、死亡した。

この事例から、考えてほしいのは、

- ①事前に登山地図を確認し、沢ではなく、尾根を登ることを頭に入れておく。
- ②「あれっ！おかしい」と思ったら、初期の段階で地図を見る。
- ③「滑落」の場合は、かなり前から「おかしい」と感じていると思うので、初期の段階で引き返す。
- ④単独行動は、慎重の上に、慎重な行動をとる。
- ⑤11月という季節は、冬がそこまで来ているので、精神的な不安もある。ということだろうか。事故は、「何故？という場所」で起きているし、「何故？おかしい？と思ったときに戻らないのか？」という疑問が残る。しかし、それが道迷いなのだ。肝に銘じたい。